

真宗大谷派
東本願寺
shinshu Otani-ha

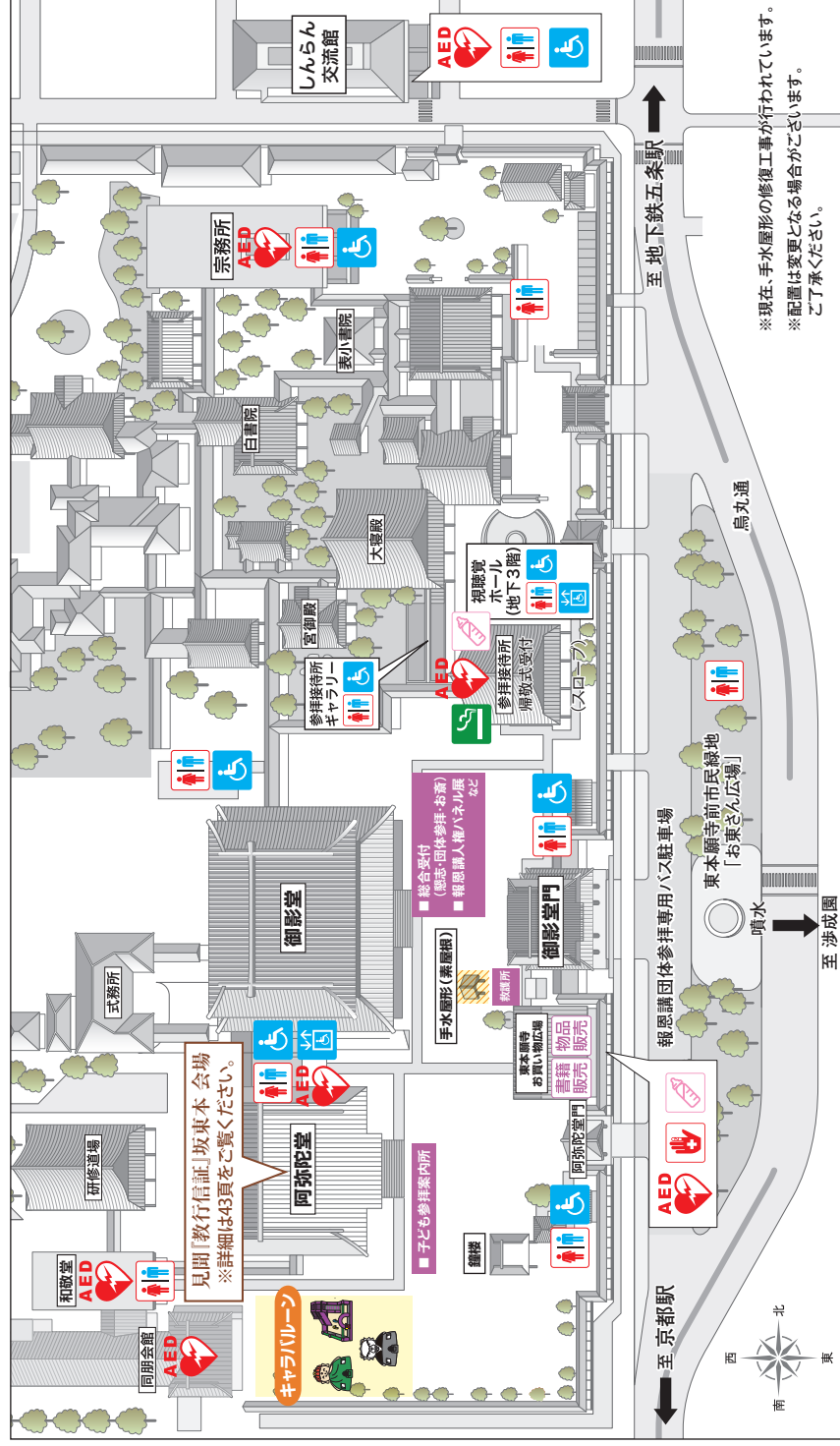
2024年
11月21日(木) ~ 28日(木)

京都
真宗本廟
(東本願寺)

報恩講



真宗本廟(東本願寺)案内図



書籍販売

物品販売



 救護室



授乳室



車いす
トイレ



エレベーター
車いす



令和6年能登半島地震
復興支援事業を実施します
※詳細は52頁をご覧ください。

工事エリア

聖句

竊かに以みれば、難思の弘誓は難度海を度する大船、無碍の光明は無明の闇を破する恵日なり。然れば則ち、淨邦縁熟して、調達、闍世をして逆害を興ぜしむ。淨業機彰れて、釈迦、韋提をして安養を選ばしめたまえり。斯れ乃ち、権化の仁、斉しく苦悩の群萌を救済し、世雄の悲、正しく逆・謗・闡提を恵まんと欲す。

故に知りぬ、円融至徳の嘉号は悪を転じて徳を成す正智、難信金剛の信樂は疑を除き証を獲しむる真理なりと。

爾れば、凡小、修し易き真教、愚鈍、往き易き捷徑なり。大聖の一代の教、是の徳海に如く無し。穢を捨て淨を欣い、行に迷い信に惑い、心昏く識寡なく、悪重く障多きもの、特に如来の發遣を仰ぎ、必ず最勝の直道に帰して、専ら斯の行に奉え、唯、斯の信を崇めよ。

噫、弘誓の強縁、多生にも値い匡く、真実の淨信、億劫にも獲回し。遇たま行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ。若し也た此の回、疑網に覆蔽せられれば、更つて復た曠劫を逕歴せん。誠なるかな、撰取不捨の真言、超世希有の正法、聞思して遲慮すること莫かれ。

顕浄土真実教行証文類序（総序）より

目次

03	宗務総長挨拶
06	報恩講をたずねて
08	親鸞聖人のご生涯
12	報恩講の法要・行事日程 （11月21日～28日）
30	法要式次第
38	登高座とは
39	『報恩講私記』（式文）について
40	『嘆徳文』について
41	帰敬式のご案内
42	報恩講 お斎のご案内
43	法要期間中の諸行事
47	ライブ配信／宗派HP・Xのご案内
48	渉成園のご案内
50	大谷祖廟のご案内
51	真宗本廟奉仕のご案内
52	令和6年能登半島地震 復興支援事業

恩徳讃

正像末和讃

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

全体日程

時 間	21日(木)	22日(金)	23日(土)	24日(日)	25日(月)	26日(火)	27日(水)	28日(木)
6時50分		初晨朝 法 話	晨 朝 法 話	晨 朝 法 話	中晨朝 法 話	晨 朝 法 話	晨 朝 法 話	結願晨朝 ※6時30分～ 法 話
9時	御正忌報恩講 讃仰法要 法 話							結願日中 集会(開式) 祖徳讃嘆
9時30分		初日中集会 (開式) 法 話	日中集会 (開式) 法 話	日中集会 (開式) 法 話	中日中集会 (開式) 法 話	日中集会 (開式) 法 話	日中集会 (開式) 法 話	
10時	法要 (音楽法要)	初日中法要	日中法要	日中法要	中日中法要	日中法要	日中法要	結願日中 法要
	帰敬式		帰敬式	帰敬式		帰敬式	帰敬式	
		帰敬式			帰敬式			
12時30分								
13時15分	初速夜集会 (開式)	速夜集会 (開式)	速夜集会 (開式)	中速夜集会 (開式)	速夜集会 (開式)	速夜集会 (開式)	結願速夜集会 (開式)	
	門徒感話	門徒感話	生徒感話	学生感話	門徒感話	門徒感話	門徒感話	
	報恩講法話	報恩講法話	報恩講法話	報恩講法話	報恩講法話	報恩講法話	報恩講法話	
14時	初速夜法要	速夜法要	速夜法要	中速夜法要	速夜法要	速夜法要	結願速夜 法要	※～15時40分
		御文法話	御文法話		御文法話	御文法話		
15時30分	初夜勤行	初夜勤行	初夜勤行	御文法話 初夜勤行		初夜勤行	御俗姓 初夜勤行	
16時					初夜勤行			
16時30分					御伝鈔			
18時30分					後夜勤行			

※時間は目安です。また、時間・内容を変更する場合があります。

二〇二四年 真宗本廟報恩講

南無阿弥陀仏あればこそ — われらの出発点 —

宗務総長
木越 渉



本年一月に発生した大地震は、能登地方を中心に甚大な被害をもたらしました。
今なお苦難の生活を送られている方々、悲しみの中におられるすべての方々に、あらためてお見舞い
申し上げますとともに、復興に向けてご尽力くださっている皆さまに心より感謝いたします。

真宗門徒の生活が大切に紡がれ、土徳の根付く能登の危機は、宗門全体の危機と捉え、今後も息
の長い支援を続けてまいります。今報恩講期間中においても、能登の文化や生業に触れていただける
復興支援催事を開催することです。

さて、本年も宗祖親鸞聖人の御正忌報恩講をお迎えさせていただきました。

宗祖が「夫れ真実の教を顕さば則ち『大無量寿経』、是れなり」（『教行信証』教巻『真宗聖典 第二版』六三頁）と言われた『仏説無量寿経』における弥勒菩薩の告白に、

今仏に値うことを得て、復た無量寿仏の声を聞きて歡喜せざるもの靡し。

心、開明することを得つ。

（『真宗聖典 第二版』六八頁）

との教言があります。宗祖はここで、「声」の文字に「みな（御名）」と読み仮名を付されています。「無量寿仏の声・御名を聞く」とは、仏の名号である「南無阿弥陀仏を聞いていく」ということです。

その声・御名を訪ねるのは、今を生きている人に限りません。先ゆかれた大切な人。その人が手を合わせていたお内仏。御同行が集い支えてきた本堂。その根源に「南無阿弥陀仏」があります。そのようにして、宗祖の御一流にあずかる先達は、「聞其名号 信心歡喜」（『真宗聖典 第二版』四七頁）に始まり、「聞其名号 信心歡喜」に帰結する生活を紡いでくださったのです。

凡夫である私たちには、必ず「教え」が必要です。その教えに生きた先達、南無阿弥陀仏を届けてくださっている、その最も身近な人が宗祖親鸞聖人です。

自己を中心に生き、苦悩の中に生きる私たちには、教えを聞き、歡喜し、教えを信ぜずにおられない「南無阿弥陀仏の道」が、既にしてあるのです。

本年の報恩講においても、宗祖親鸞聖人に直参し、「念仏の声が鳴り響く場」を相共に創ってまいりたいと念願しております。

なお本年も、阿弥陀堂において、『教行信証』坂東本（影印本）を、職員の説明を交えてご覧いただける機会を設けます。

なぜ宗祖が『教行信証』を著されたのか。その動機を聞き訪ね、「南無阿弥陀仏あればこそその私」という出発点を確かめ合う機会といたしましょう。

さあ、親鸞聖人に会いに来てください。一人でも多くのご参拝を、心よりお待ちしております。

南無阿弥陀仏



報恩講をたずねて

報恩講とは、宗祖親鸞聖人の御祥月命日に勤まる法要のことです。祖師の御祥月命日や御命日に報恩の仏事が勤まることは真宗独自のものではありませんが、真宗門徒にとっては、一年でもっとも大切で中心となる仏事として勤まってきました。

報恩講は親鸞聖人滅後、門弟たちが親鸞聖人の御命日にお勤めをしたことに始まります。当時は「報恩講」と称していませんでしたが、宗祖三十三回忌の際には、第三代覚如上人が『報恩講私記』（式文）（本冊子39頁掲載）をお作りになって法要の次第を調べられ、後に覚如上人の子・存覚上人が『嘆徳文』（同40頁掲載）をお作りになって法要の次第に加えられました。そして第八代蓮如上人の頃には、各地の寺院・道場でも広く勤まるようになりました。

しかしその源をたずねれば、親鸞聖人ご自身が、師・法然上人の御命日に人々と寄り合い、仏法を聴聞し、お勤めをしておられたことにあるといえます。親鸞聖人は生涯、日々新しく、感動をもって法然上人がお説きになった念仏の教えを聞き、そして語り合っていたのですが、その大切な機会が法然上人の御命日の集い（講）であつたとうかがわれます。御命日にお勤めをしつつ、法然上人の教えをいよいよ深くいただいていた、この親鸞聖人のお姿こそ、いま私たちがお勤めしている報恩講の原点です。

思えば、私たちが生きていくうえには親の恩や師の恩など、いろいろなご恩があります。それぞれ大切なことですが、報恩講の恩とは、なにより親鸞聖人がいただかれた念仏の教えに遇い、自らが生きる依り処を教えていただいたご恩のことです。そのご恩に報謝し、いよいよ親鸞聖人が明らかにされた真実のみ教えを聞信し、共に念仏申す身となっていくことを誓うことが報恩講の大切な意味なのです。

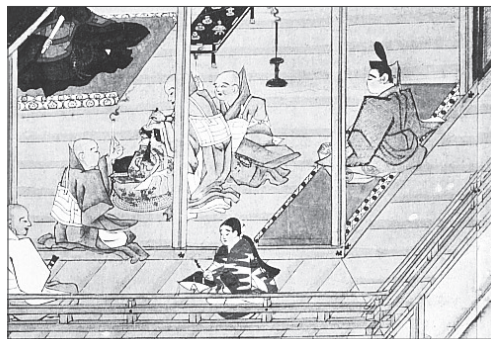
親鸞聖人のご生涯

浄土真宗の宗祖親鸞聖人は、戦乱や災害が相次いだ平安時代末期から鎌倉時代にかけて、九十年のご生涯を送られました。そのご生涯をたずねてみましょう。

① 誕生と出家（九歳）

一一七三（承安三）年、親鸞聖人は、京都にお生まれになりました。父である日野有範は朝廷に仕える役人でしたが、母についてはさだかではありません。

九歳の時、親鸞聖人は、後の天台座主・慈円のもとで出家されます。それから二十年の間、比叡山延暦寺できびしい修行と学問にはげまれました。しかし、どれだけ修行と学問にはげんでも、さとりを開く道を見出すことはできませんでした。

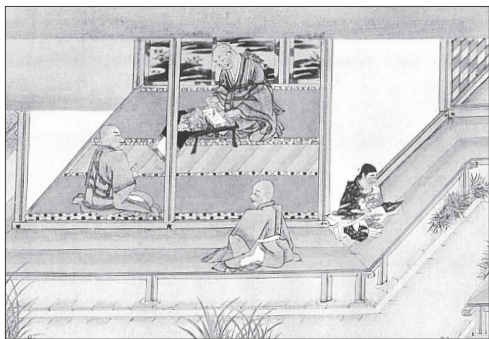


出家（『本願寺聖人伝絵』康永本・重要文化財）

② 法然上人とのであい（二十九歳）

親鸞聖人は、二十九歳の時、比叡山の仏教と決別し、道を求めて聖徳太子ゆかりの六角堂に籠られました。そして、九十五日目の暁、聖徳太子の夢告にみちびかれて、法然上人のもとをたずねられます。法然上人は、だれに対しても平等に「ただ念仏もうしなさい」とお説きになっていました。親鸞聖人は、この教えこそ、すべての人に開かれている仏道であるとうなずかれ、法然上人を生涯の師と仰ぎ、念仏者として歩み出されました。

法然上人のもとで、親鸞聖人は約六年間過ごされました。その間に、法然上人から主著『選択本願念仏集』の書写と真影（法然上人の肖像画）の製作を許されました。また、恵信尼公と出会い、結婚されたのもこの頃とされています。



『選択集』の付属

③ 越後・関東での生活

(三十五歳から六十歳ごろ)

法然上人の念仏の教えには、親鸞聖人だけでなく、老若男女、身分を問わず、たくさんの人々が帰依されました。しかし、興福寺や延暦寺などの他宗から強い反発を受け、ついに朝廷が弾圧に踏み切ります。その結果、四人が死罪、八人が流罪というきびしい処罰が下され、法然上人は土佐(現在の高知県)へ、親鸞聖人は越後(同新潟県)へ流罪となりました。親鸞聖人三十五歳の時でした。五年後、流罪が許された親鸞聖人は、法然上人の死を知ると、京都には戻らず関東へ向かわれました。そこで約二十年間滞在し、常陸(同茨城県)の稲田を中心に、念仏の教えを広く伝えていかれました。

また、この地において、主著『顕浄土真実教行証文類』(『教行信証』)を書き始められたとされています。



『顕浄土真実教行証文類』(坂東本・国宝)

④ 京都での生活 (六十歳ごろから九十歳)

親鸞聖人は、六十歳ごろ関東から京都に戻られたといわれています。

その後、関東では念仏の受けとめをめぐる、様々な混乱や対立が occurred。そのなかで、誤った教えを広めた長男の慈信房善鸞と親子の縁を切るといふ悲しい出来事もありましたが、親鸞聖人は、『教行信証』を書きすすめるとともに、終生同朋・同行に手紙や書物を送り、念仏の教えを伝え続けられました。

一二六二(弘長二年)十二月二十八日、親鸞聖人は九十年の生涯を終えられました。末娘の覚信尼公ら家族や門弟たちが、死を看取り、葬儀を行ったといひます。遺骨は、大谷(現在の京都市東山区)に埋葬され、小さなお墓が立てられました。このお墓が廟堂となり、やがて本願寺(真宗本願)の御影堂へと受け継がれていくのです。この廟堂に関東(坂東)の門弟たちが参拝し、親鸞聖人をしのび念仏する姿が、後に坂東曲となったと伝えられています。



入滅

21日木

法要日程

法話テーマ「南無阿弥陀仏あればこそわれらの出発点」

午前

前

午後

後

【開門】6時20分 【閉門】17時

21日木の行事

御影堂

9時	御正忌報恩講讃仰法要 法話 上本賀代子氏(大阪教区)
10時	法要(音楽法要) 【作曲】新美徳英氏(作曲家) 式次第は左頁参照 約1時間
引続	帰敬式 ◆帰敬式の受式については、 41頁参照

【合唱指導・指揮】
鏑木勇樹氏
(同朋高等学校
音楽科主任教諭)
【電子オルガン伴奏】
魯あす香氏

御影堂

13時15分	初速夜集会(開式) 初速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。
14時	門徒感話 谷口 敏氏(小松大聖寺教区) 報恩講法話 金倉泰賢氏(北海道教区) 初速夜(楽) ◆式次第は30頁参照 約1時間30分
引続	初夜勤行 【正信偈草四句目下・同朋奉讃】

御正忌報恩講
讃仰法要(音楽法要)

時間 9時〜11時

場所 御影堂

【日程】

- 9時 報恩講初速夜に先立ち、今年も親鸞聖人の御正忌報恩講讃仰法要(音楽法要)が勤まります。
- 9時5分 音楽法要は、親鸞聖人七百五十回御遠忌をご縁として制作された新実徳英氏の音楽法要曲を用います。この法要曲は、同朋唱和により、ご参拝の皆さまと共に唱和できるよう編成されました。一人でも多くの方の歌声によって法要を荘厳しましょう。
- 9時5分 眞宗宗歌
- 9時35分 法話
- 10時 内局挨拶
- 入堂
- 出仕曲
- 着座曲
- 総礼
- 登座曲
- 三帰依
- 表白
- 散華曲
- 下高座曲
- 総礼
- 正信偈(和訳正信偈)
- 念仏
- 和讃三朝浄土の大師等
- 回向
- 総礼
- 退出曲
- 退堂

※当日ご参拝の方には、歌詞等が掲載された冊子を配布いたしますので、ぜひ一緒にご唱和ください。

(公社)大谷保育協会京都支部
代表園児による
報恩講合同参拝・公開保育

時間 11時〜12時15分

場所 眞宗本廟視聴覚ホール
(参拝接待所地下2階)

※どなたでも観覧いただけます。

親子で取り組むレクリエーションがほほえましい公開保育に、ぜひお越しください。



二〇二四年御正忌報恩講 讃仰法要(音楽法要) 表白

謹つしんで弥陀みだ・釈迦しゃか二尊にそん、並びに三世さんぜ十方じつぽうの仏ぶつ・法ぼう・僧そう、加えて御参会ごさんかいの同朋どうぼうの皆様みなさまに申し上げます。本日ここに、有縁うゑんの同朋どうぼうあい集い、御正忌報恩講讃仰ごしょうきほうおんこうさんこう音楽法要おんがくほうようを勤修きんしゆするにあたり、その願いを申し上げます。

この一年もまた、さまざまなことが起こりました。一月の能登半島地震、そして、引き続きの豪雨災害では大変な被害がもたらされました。さらに世界に目を向ければ各地での戦火もやむどころか、広がってゆくように見えます。本当に人間の、そして自らの無力なことを思い知らされるばかりです。

『仏説無量寿経』に次のような言葉があります。

今仏いまぶつに値もうあうことを得て、復た無量寿むりやうじゆぶつ仏みなの声を聞ききて歓喜かんぎせざるもの靡なし。
心こころ、開明かいみんすることを得つ。

「声を聞みく」とは、すなわちさまざまな祖師、先達、私たちに先立って念仏ねんぶつしていただくさった方の、南無阿弥陀仏なむあみだぶつという声こゑを聞きくということです。その声こゑに導かれ、私たちの念仏ねんぶつの声こゑを重ねながら、生活してゆくことです。

それはとりもなおさず、仏の光に私のありのままの姿が照らし出されるということです。阿弥陀仏に南無せよ、愚の大地に帰れ、そういう呼びかけに真向かいになって生きてゆくことです。それが歓喜よろこびであると教えられています。

伏して申しあげます。仏祖の御照護を請い、この音声おんじやうの力に乘せて、南無阿弥陀仏の声が一切世界に降り注ぎ、ゆたかに潤さんことを。

二〇二四年十一月二十一日 釈修如しやくしゅうにょ、敬つて申しあげます。

釈修如

22日 金の行事

【開門】5時30分 【閉門】17時

22日 金

法要日程

法話テーマ「南無阿弥陀仏あればこそ」われらの出発点」

午前

午前

午後

午後

阿弥陀堂・御影堂

6時50分

初晨朝

◆式次第は31頁参照

約50分

御文

稲垣直来氏(大阪教区)

9時30分

初日中集会(開式)

初日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

法話

上本賀代子氏(大阪教区)

10時

初日中(楽)

◆式次第は31頁参照

約1時間45分

引続

帰敬式

◆帰敬式の受式については、41頁参照

御影堂

13時15分

速夜集会(開式)

速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

門徒感話

佐々木尚子氏(新潟教区)

報恩講法話

東館紹見氏

(真宗大谷派擬講・東北教区)

速夜

◆式次第は36頁参照

約1時間

御文法話

「御正忌」(五帖目十一通) 上本賀代子氏(大阪教区)

初夜勤行

【正信偈草四句目下・同朋奉讃】

東本願寺たかくら

こども園

園児発表会

時間 11時～12時

場所 真宗本廟視聴覚ホール

(参拝接待所地下2階)

※どなたでも観覧いただけます。

園児たちが歌やダンスを披露します。



御文法話

期間 22日～26日 各日速夜後

御文とは、真宗再興の祖、第八代蓮如上人が書かれたお手紙です。

御文の拝読は、「蓮如上人の直接御化導を参拝の大衆に伝達する為のものである」とされています。

御文法話には、一定の順序形式がありました。それは、一座の法談を展開する主題である讃題に始まり、典拠、随文、作釈、譬喩、因縁、合法、安心、報謝、師徳、法度という構成になっており、法話の最後の結びとして、「尚一座の所詮安心の正意は拝読の御文を大切に聴聞いたさるよう」とのこたばを残して、御文の拝読に移るものでした。今日では古式に則った形ではありませんが、真宗本廟の報恩講では22日から26日の速夜後に行われます。

23日土の行事

【開門】5時30分 【閉門】17時

23日土

法要日程

法話テーマ「南無阿弥陀仏あればこそくわれらの出発点」

午前

午後

午後

午後

阿弥陀堂・御影堂

6時50分

晨朝

◆式次第は36頁参照

約50分

御文

法話

小林智光氏(新潟教区)

日中集会(開式)

日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

法話

小林智光氏(新潟教区)

※手話通訳があります。

日中

◆式次第は37頁参照

約1時間

御影堂

10時

引続

帰敬式

◆帰敬式の受式については、41頁参照

御影堂

14時

引続

13時15分

速夜集会(開式)

速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

生徒感謝

中村真之介氏(同朋高等学校)

報恩講法話

松金直美氏

(真宗大谷派擬講・富山教区)

速夜

◆式次第は36頁参照

約1時間

御文法話

「八箇条」(四帖目八通)

初夜勤行

小林智光氏(新潟教区)

【正信偈草四句目下・同朋奉讃】

子ども報恩講のつどい

時間 11時45分～15時

場所 御影堂・阿弥陀堂・同朋会館・和敬堂

子どもたちが親鸞聖人や真宗本廟にふれるご縁となることを願い、一緒に両堂に参拝し、お話を聞きます。楽しいレクリエーションもあります。ぜひご家族やお友達とお参りください。



【子ども参拝案内所】

10時

受付開始

程

11時45分～ ちかい・レクリエーション

日

12時20分～ お勤め・お話

13時

お斎(カレー)

14時

おたのしみ(自由参加)

【同朋会館】

【御影堂】

【和敬堂】

【お話し】佐野明弘氏(大谷専修学院院长)

◆お問い合わせは青少年センター(TEL075-354-3440)まで

大谷中学・高等学校
吹奏楽部演奏会

時間 11時30分(帰敬式後)～

12時

場所 御影堂北側広縁

宗派の関係学校である京都・大谷中学・高等学校の吹奏楽部の皆さんに演奏いただきます。世代を問わず楽しめる演目です。ぜひご来聴ください。



24日 日の行事

【開門】5時30分 【閉門】17時

24日 日

法要日程

法話テーマ「南無阿弥陀仏あればこそわれらの出発点」

午前

午後

阿弥陀堂・御影堂

6時50分

晨朝

◆式次第は36頁参照

約50分

御文

法話 荒川正憲氏(東京教区)

日中集会(開式)

日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

御影堂

10時

法話

◆式次第は37頁参照

約1時間

帰敬式

◆帰敬式の受式については、41頁参照

御影堂

14時

中速夜

◆式次第は32頁参照

約1時間30分

御文法話「中古已来」(四帖目五通)

荒川正憲氏(東京教区)

中速夜集会(開式)

中速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

学生感話

明 心優氏(九州大谷短期大学)

報恩講法話

安藤 弥氏

(真宗大谷派擬講・岡崎教区)



第32回 真宗教学学会講演会

時間 18時〜20時20分(17時開場)

場所 しんらん交流館2階大谷ホール

※聴講無料(申込不要)・椅子席

真宗教学学会は、真宗教学の振興を図り、立教開宗の精神を顕らかにするために設置された宗門の学会であり、毎年御正忌報恩講中に宗派内外から講師をお招きして講演会を開催しています。昨年度より「人と生まれて―信仰と社会―」をテーマに設定しています。多くのご参加をいただき、ともに考える機会となることを願っています。

お問い合わせ 教育部 TEL 075-371-9193

【テーマ】人と生まれて―信仰と社会―

【講師・講話】



「ウェルビーイング(しあわせ)と現代仏教」
櫻井義秀氏(北海道大学教授)



「人口減少地域における宗教意識の揺らぎ」
研究の中間報告
木越 康氏(大谷大学教授)

月刊誌『同朋』の人気連載、書き下ろしを加え、待望の書籍化!!



『煩惱百八面相』

梶哲也(著)

今村風子(絵)

◆文庫判/120頁
定価:770円(税込)

『仏教ゆかりの生きものの図鑑』

福田琢(著)

大島加奈子(絵)

◆B5変型判/80頁
定価:1210円(税込)



オールカラー

お経などに登場する牛や兎、鹿や象、龍といった“生きもの”を通して物語られてきた、仏教の心とは?精緻に描かれた絵とともに、東本願寺を飾る“生きもの”の彫刻も紹介。

人間を悩ませ悩ませる“煩惱”。毒、火、慢、無明など、いま私たちの心に起こっているのは、どの煩惱?仏教の学びと色彩ゆたかな絵で、鮮やかに読み解く手引書。

東本願寺お買い物広場にて発売中!

25日月の行事

【開門】5時30分 【閉門】19時

25日月

法要日程

法話テーマ「南無阿弥陀仏あればこそ」われらの出発点」

午前

午後

阿弥陀堂・御影堂

6時50分

中晨朝

◆式次第は32頁参照

約50分

御文

法話

波佐谷見正氏

(北海道教区)

9時30分

中日中集会(開式)

中日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

法話

不破英明氏(大垣教区)

中日中(楽)

約1時間40分

◆式次第は33頁参照

帰敬式

◆帰敬式の受式については、41頁参照

御影堂

13時15分

速夜集会(開式)

速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

門徒感話

藤浦恵美子氏(九州教区)

報恩講法話

荒山 淳氏(名古屋教区)

速夜

◆式次第は36頁参照

約1時間

御文法話

「毎年不闕」(三帖目十一通) 不破英明氏(大垣教区)

初夜勤行

【正信偈草四句目下・同朋奉讃】

御伝鈔

約2時間

後夜勤行

御伝鈔

時間 16時30分

場所 御影堂

『御伝鈔』は正式には『本願寺聖人伝絵』といい、第三代の覚如上人が撰述された絵巻物です。宗祖親鸞聖人の伝記として、最初のものであり、聖人のご生涯を、感銘深いエピソードを交えてなじみやすく述べられた点でも、画期的なものと評価されています。



毎年、真宗寺院の報恩講では、真宗本廟に伝えられる康永本を原型とした四幅(または二幅)の『御絵伝』が内陣余間に掛けられ、『御伝鈔』が拝読されてきました。縦長の軸物になった『御絵伝』は、下から上へと順々に聖人の行実が描かれています。

『御伝鈔』は概略しますと、上巻には、親鸞聖人の求道の歩みが、主に吉水時代を中心に語られます。下巻では、念仏停止の弾圧の嵐のただなかで、命がけで念仏の道をひろめんがため、ご苦労なされた越後・関東時代からご帰洛後におよび、さらに浄土へ還帰されたあと、廟堂が建立され、お念仏の灯が、いよいよ輝きを増し、参詣のにぎわいはご生前をしのぐほどになったことが伝えられています。そこには、後の世まで、これを伝え護っていかなければならぬという覚如上人の強い責任感と使命感があふれています。

『親鸞聖人伝絵』の入門書

オールカラー



『はじめてふれる
親鸞聖人伝絵
(御伝鈔・御絵伝)』
沙加戸 弘(著)

◆B5判/104頁
定価:1,650円(税込)

親鸞聖人伝絵に初めてふれる方に最適な入門書。御絵伝全20図の詳細な解説や御伝鈔本文の試訳等を収録。

『御伝鈔』拝読の作法がわかる本

オールカラー



『真宗大谷派
御伝鈔拝読稽古本』
真宗大谷派宗務所本願部(著)
◆B5判/64頁
定価:2,200円(税込)

本山蔵版の『御伝鈔』を底本とし、本文中に読み仮名や読法を示した稽古本。

『真宗大谷派 御伝鈔(CD)』
『御伝鈔』拝読の練習用CD(上巻・下巻2枚組)。
定価:3,300円(税込)

お求めは、東本願寺お買い物広場にて

26日 火の行事

【開門】5時30分 【閉門】17時

26日 火

法要日程 法話テーマ「南無阿弥陀仏あればこそ」われらの出発点

午前

午後

阿彌陀堂・御影堂

6時50分

晨朝

◆式次第は36頁参照

約50分

御文

法話

犬飼祐三子氏
(名古屋教区)

日中集会(開式)

日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

御影堂

10時

法話

高名和丸氏(東北教区)

日中

◆式次第は37頁参照

約1時間

帰敬式

◆帰敬式の受式については、41頁参照

御影堂

14時

速夜

◆式次第は36頁参照

御文法話「大坂建立」(四帖目十五通)

高名和丸氏(東北教区)

初夜勤行

【正信偈草四句目下・同朋奉讃】

速夜集会(開式)

速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

門徒感話

杉本信之氏(三重教区)

報恩講法話

三歸裕子氏(大阪教区)

約1時間



親鸞聖人讃仰講演会

時間 17時〜20時(開場16時)

※本年より開会時間を変更しております。

場所 しんらん交流館2階大谷ホール

※聴講無料(予約不要)・椅子席

報恩講を機縁として、多くの方々と宗祖親鸞聖人の蹟かにされた本願念仏のみ教えを共に学び、そのご生涯を讃仰するため、親鸞聖人讃仰講演会を開催いたします。

【26日の講師・講題】



「物語としての浄土教」
岩田文昭氏(大阪教育大学名誉教授)



「承元の法難」
―「後序」という記述がないことを中心に―
延塚知道氏(大谷大学名誉教授・真宗大谷派講師)

※講演の様子をインターネットにて同時配信いたします。
詳しい情報は、しんらん交流館ホームページにて公開中！

生きることも死ぬことも、丸ごと「私の人生」といただけますか…？

新刊



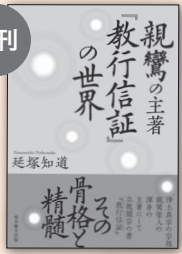
伝道ブックス90
生も死も引き受けて
―南無阿弥陀仏のいのちに生きる―
延塚 知道(著)
◆新書判/80頁
定価・330円(税込)

南無阿弥陀仏(本願)の教えに生き、死を受け入れていくとはどのようなことなのか――。著者の父や師、郷里の念仏者たちとの出会い、そして妻の看病と別れの中で交わされた言葉をとらえて。

お求めは、東本願寺お買い物広場にて

親鸞聖人渾身の名著『教行信証』を読み解く

既刊



親鸞の名著
『教行信証』の世界
延塚 知道(著)
◆四六判/360頁
定価・1760円(税込)

浄土真宗の宗祖親鸞聖人の名著『教行信証』。この書を著した聖人の思想背景と、その方法論を深く尋ねた一冊。

27日水

法要日程

法話テーマ「南無阿弥陀仏あればこそわれらの出発点」

午前

午後

【開門】5時30分 【閉門】17時

27日水の行事

阿弥陀堂・御影堂

6時50分

晨朝

◆式次第は36頁参照

約50分

御文

法話 高名和丸氏(東北教区)

日中集会(開式)

日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

9時30分

法話

高名和丸氏(東北教区)

日中

◆式次第は37頁参照

約1時間

帰敬式

◆帰敬式の受式については、41頁参照

御影堂

10時

引続

御影堂

13時15分

結願速夜集会(開式)

結願速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

門徒感話

有馬圭子氏(大阪教区)

報恩講法話

吉元信曉氏(九州教区)

結願速夜(案)

◆式次第は34頁参照 約1時間40分

御俗姓

初夜勤行

【正信偈草四句目下・同朋奉讃】

引続

14時

御正忌報恩講
コンサート

時間 11時30分～13時30分

場所 しんらん交流館2階大谷ホール

※参加無料(予約不要・椅子席)

各教区の合唱団及び関係学校による仏教讃歌のコンサートです。教えに出遇った喜びを表現します。

【出演団体】

◆信願寺コーラスひびき(大垣教区)

◆岡崎教区合唱団

「コールアバー」(岡崎教区)

◆三重教区合唱団「ひかり」

(三重教区)

◆大谷大学男声合唱団&

コーリンデンクラブ

◆光華小学校



親鸞聖人
讃仰講演会

時間 17時～20時(開場16時)

※本年より開会時間を変更しております。

場所 しんらん交流館2階大谷ホール

※聴講無料(予約不要・椅子席)

親鸞聖人を讃仰する講演会を開催します。ぜひご来場ください。

【27日の講師・講題】



「死へと遺棄される場所」から問う
石原真衣氏(北海道大学准教授)



「無上功德に値うということ」と
本多弘之氏
(親鸞仏教センター所長・真宗大谷派講師)

※講演の様子をインターネットにて同時配信いたします。詳しい情報は、しんらん交流館ホームページにて公開中！

28日木

法要日程

法話テーマ「南無阿弥陀仏あればこそ〜われらの出発点〜」

午前

阿弥陀堂・御影堂

6時30分

結願晨朝

◆式次第は34頁参照

約1時間

御文

法話

藤岡裕信氏(京都教区)

結願日中集会(開式)

結願日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

9時

御影堂

10時

祖徳讃嘆

廣瀬 惺氏

(真宗大谷派講師・大垣教区)

結願日中(楽)「坂東曲」

約2時間30分

◆式次第は35頁参照

28日木の行事

親鸞聖人
讃仰講演会

時間 17時〜20時(開場16時)

※本年より開会時間を変更しております。

場所 しんらん交流館2階大谷ホール

※聴講無料(予約不要)・椅子席

親鸞聖人を讃仰する講演会を開催します。
ぜひご来場ください。

【28日の講師・講題】

「功德は行者の身にみどり」
一楽 真氏(大谷大学学長)「真実証」の現実義」
池田勇諦氏
(同朋大学名誉教授・
真宗大谷派講師)※講演の様子をインターネットにて同時配信いたします。
詳しい情報は、しんらん交流館ホームページにて公開中！

祖徳讃嘆

祖徳讃嘆は、念仏の教えを顕かにされた宗祖親鸞聖人の恩徳を讃嘆し、その教えをいただく場として、毎年、聖人の祥月命日である11月28日に行われます。

坂東曲

28日の結願日中(御満座)には「坂東曲」が用いられます。この声明の由来について、詳細は明らかではありませんが、一説には鎌倉時代から南北朝時代、第三代覚如上人の頃に勤まった関東の同行による勤行がはじまりとも伝えられています。念仏と和讃を繰り返し、体を力強く前後左右に動かして勤まるもので、大変ダイナミックな声明であり、今では当派のみに伝えられています。和讃には二通りあって、隔年で勤まります。一つは高僧和讃の「願力成就の報土には」六首、もう一つは正像末和讃の「濁世の有情をあわれみて」六首で、今年は正像末和讃で勤まります。





法要式次第 (中逮夜・中晨朝・中日中)

24日 中逮夜

御影堂		先	出仕	双調	回盃楽
次		着座楽			
次		総礼			
次		正信偈	句切		
次		念仏讃	洵十	三重念仏	附物
和讃		十方微塵世界ノ		次第五首	
六首目		弥陀ノ名号トナヘツ、			
五遍反					
次回		向世尊我一心	附物		
次		総礼			
次		退出楽	酒胡子		
退出					
御文法話		中古已来			

25日 中晨朝

阿弥陀堂		先	出仕	内陣始経
次		総礼		
次		短念仏	真読	
次		回向	ナンダ	十遍
次		總礼	我說彼尊功德事	
御早引有之 (源空讃)				
次		總礼		
先		出仕		
御影堂				
次		正信偈	草四句目下	
次		念仏讃	洵十	
五遍反				
次回		向	本師龍樹菩薩ハ	
次		総礼	我說彼尊功德事	
次		百遍念仏		
次		總礼		
次		退出楽	三箇条	
御文過			大仏供御備替	

25日 中日中

御影堂		先	乱声	黄鐘調	桃季花
次		着座楽	出仕		
次		総礼			
次		伽陀	稽首天人	附物	
次		登高座楽		平蛮花	
登高座					
式初段					
次		伽陀	若非釈迦	附物	
次		念仏			
次		式二段			
次		伽陀	世尊說法	附物	
次		念仏			
次		式三段			
次		伽陀	身心毛孔	附物	

次		念仏			
次		嘆徳文			
次		下高座楽	拾翠楽		
伽陀		直入弥陀	附物		
次		総礼			
次		文類偈	草四句目下		
念仏讃		洵十			
和讃		生死ノ苦海ホトリナシ	三重念仏	附物	
次回		向願以此功德			
次		総礼			
次		恩徳讃			
次		退出楽	越殿楽		
退出					

御影堂
先出
次總
次正信
念仏
二十

次第六首

次第六首

先 御影堂 次次次次次次先 阿弥陀堂
出 但退総回短漢総出
二 合 音

内陣始經

(14)

次第六首

次第六首

1001

御影堂

若非釈迦

身心毛孔

直入弥陀

次第三首

才力二次第三首



『報恩講私記』(式文)について



(本文はコチラ)

『報恩講私記』は、報恩講で拝読する文で、一二九四(永仁二年、宗祖親鸞聖人三十三回忌法要にあたって、第三代覚如上人が作られました。『報恩講式』とも書き、略して『式文』ともいいます。真宗本廟の報恩講では各日の日中法要中に拝読されます。

まず総礼(合掌)のち、三礼(仏・法・僧の三宝への敬礼)・如来唄(如来の讃嘆)・表白が拝読されます。

表白とは、法会を修するにあたり趣旨を読みあげるものです。『報恩講私記』では、冒頭の「敬いて大恩教主釈迦如来…」の部分がそれにあたります。そこでは、阿弥陀如来の大悲の恩徳と、その大悲に気づかせてくださった親鸞聖人の恩徳に報謝し、すべての人々が阿弥陀仏の大悲に遇うことを願って報恩講を修することが表白されます。

表白に続いて、親鸞聖人の遺徳を三つ挙げて讃嘆する文が拝読されます。

第一の「真宗興行の徳」とは、親鸞聖人が浄土真宗をお開きになり、広められたという徳です。覚如上人は、親鸞聖人のご生涯のご苦勞を記し、いま、私たちがお念仏の教えに出遇うことができたのは、このご苦勞を通して真宗の教えが開かれたためであり、遺弟の方々

の念仏の力によつて盛んになったためであると讃嘆されています。そして念仏することによつてこのご恩に報いましょうと勧めています。

第二の「本願相応の徳」とは、親鸞聖人が本願念仏の教えを説かれ、仏のお心に相応されたという徳です。覚如上人は、念仏をする人は多いけれども、念仏して救われる道を身をもって説き、導いてくださった方こそ親鸞聖人であると讃嘆されています。そして、覚如上人は、このような仏のお心になったご教化がなかったならば、どうして私たちが大いなる利益をいただくことができるだろうかとお恩を深くいただかれ、念仏することによつてこのご恩に報いましょうと勧めています。

第三の「滅後利益の徳」とは、親鸞聖人が亡くなられた後も、教えにふれ、帰依する者が多いという徳です。覚如上人は、親鸞聖人が亡くなられても、教えを聞いた多くの方々、各所で人々に勧め、親鸞聖人が生きておられたとき以上に教えが広まっていると讃嘆されています。そして親鸞聖人は、いつでもどこでも人々を導き救うという阿弥陀如来の仏事を担い、私たちを導いてくださっていると讃嘆され、念仏することによつてこのご恩に報いましょうと勧めています。



御正忌報恩講結願日中(2023年11月28日)



とう こう ざ 登高座とは

登高座は、その法要の導師が、尊前において法要の趣旨・願い(表白)を述べるもので、報恩講においては『報恩講私記』『嘆徳文』の拝読、さらに經典読誦のために行う作法です。導師は、伽陀や樂で登壇し、焼香、三礼(三帰依)などのちに拝読を始めます。

拝読後は伽陀や樂によって復座しますが、その前に起立散華や行道散華などが仏徳讃嘆のために行われることがあります。

報恩講期間中の日中法要には、『報恩講私記』『嘆徳文』が登高座の際に拝読されます。『報恩講私記』『嘆徳文』については39・40頁をご覧ください。



(本文はコチラ)

『嘆徳文』について

『嘆徳文』は、題名のとおり親鸞聖人の徳をよろこび讃め嘆える文で、『報恩講私記』と共に報恩講で拝読されます。一三五九(延文四)年、第三代覚上人の子・存覚上人が、第四代善如上人に請われて作られました。

『嘆徳文』では、幼少の頃の学業から入滅まで、親鸞聖人のご生涯を通して浄土真宗の教えが明らかにされつつ、その遺徳が讃嘆されています。存覚上人は、まず親鸞聖人が聖道の教えをすてて本願念仏に帰されたことを確かめておられます。

定水を凝らすと雖も識浪頻りに動き、心月を観ずと雖も妄雲猶覆う(心をしずめようとしても意識は浪のように動き、法を観ようとしても迷いの雲が覆ってしまふ)。

存覚上人は、親鸞聖人が聖道の修行を通して煩惱具足の身を見つめられたことを記し、親鸞聖人こそわれわれ凡夫が歩むことのできる真実の仏道を明らかにしてくださった方であると、そのご恩を讃嘆されています。

次に存覚上人は、親鸞聖人がどのように私たちに教え導いてくださったのかを確かめておられます。まず『教行信証』(親鸞聖人の主著『顕浄土真実教行証文類』)をお書きくださったことが挙げられ、多くの經典や論書などから大切なことをまとめ、真実の教えを明らかにしてくだ

さったと讃嘆されています。存覚上人はこの『教行信証』を深く学ばれ、『六要鈔』という註釈の書をお書きになっています。

続いて存覚上人は、親鸞聖人が『愚禿鈔』という書物をお書きくださったことを挙げています。「愚禿」とは、破戒僧(戒を破った僧)を意味する「禿」に、さらに「愚」の字を加えたもので、流罪以後、親鸞聖人はご自身の姓とし、「愚禿親鸞」と名のられました。その「愚禿」の名を冠したこの書で、特に凡夫の往生を明らかにしてくださったと親鸞聖人の教えの肝要を確かめ、讃嘆しています。この二書の讃嘆に続いて、存覚上人は、流罪から関東での教化、京都に戻られて亡くなられるまでのご教化を讃嘆すると共に、亡くなった後も多くの方々の参詣が盛んであることを讃嘆しています。

最後に存覚上人は、父・覚上人が作られた『報恩講私記』にふれ、そこに十分親鸞聖人の遺徳が讃えられているけれども、さらに重ねてご恩に報いる心を表しています。そして、「弥勒菩薩が成仏される、はるか五十六億七千万年の後まで、教えが流れ、人々を潤すことを乞うてやみません」と、その願いを記しています。

帰敬式

帰敬式は「おかみそり」ともいわれ、仏弟子となる大切な儀式です。

この帰敬式では、剃刀の儀を受け、仏・法・僧の三宝に帰依することを誓います。そして、お一人お一人に、法名が授与されます。

仏・法・僧の三宝とは、「仏」はお釈迦さまをはじめとする真実に目覚めた人といい、「法」はその仏が説かれた阿彌陀如来の本願を表します。そして「僧」は僧伽ともいい、その法に依って生きる人々の集まりのことです。その仏・法・僧は宝である、と表現して

います。

また、お釈迦さまの「釈」の字が冠せられた二字の法名は、亡くなった後の名前と思われがちですが、お釈迦さまの弟子(仏弟子)としての名告りであり、生前にいただくのが本来のあり方です。

親鸞聖人は、愚禿釈親鸞と名告り、生涯を通して、三宝に帰依する具体的なあり方として、お念仏の生活を歩まれました。帰敬式は、そのお念仏の生活をはじめめる真宗門徒としての出発式です。

2017年
札幌別院報恩講

21日は讃仰法要(音楽法要)後、22日～27日は日中法要後に帰敬式を執り行います。受式を希望される方は、希望日をお電話にてお知らせください。

また当日は、9時から9時30分までに境内の参拝接待所へお越しください。

※本山選定法名での受式に限り、当日にお申込みいただけます。
※お申し込み時にお手次の寺院・教会名を聞き取りいたします。

お一人1万円
礼金 (20歳以下 お一人5千円)

【報恩講期間中の受式に関するお問い合わせ】本廟部(参拝接待所)TEL:075-371-9210

【その他、帰敬式全般に関するお問い合わせ】

研修部(帰敬式実践運動推進事務室)TEL:075-371-9185

※11月20日及び28日は帰敬式は執行されません。



申込不要・参加無料

けん もん きょうぎょう しんしやう ばん どう ぼん
見聞『教行信証』坂東本
親鸞聖人から私たちへのメッセージ

期間 11月21日(木)～28日(木)

時間 ①11時40分～・②12時40分～
(1回15分程度を予定)

教学研究所
研究職員が
解説!

※22日・23日・25日・28日は②のみ
※各回開催予定時刻に阿弥陀堂の堂内にお集まりください

会場 阿弥陀堂
※都合により変更する
場合があります

御正忌報恩講期間中、『教行信証』坂東本(影印本)を展示し、親鸞聖人の思索を真宗大谷派(東本願寺)教学研究所の研究職員が解説いたします。

時を超えて伝えられてきた親鸞聖人の直筆にふれることで、聖人の息づかいを感じ、共にその願いをたずねましょう。

※坂東本は、現存する唯一の親鸞聖人直筆の『教行信証』です。
展示は、坂東本を忠実に再現した影印本になります。
※『教行信証』坂東本(影印本)の展示は解説時のみに限ります。

【お問い合わせ】真宗大谷派(東本願寺) 教学研究所 TEL 075-371-8750

東本願寺お買い物広場

11月21日(木)～28日(木)

時間 9時～16時 ※25日は18時30分まで
※28日は7時～16時まで

東本願寺出版発行の書籍のほか、オリジナル記念品などを取り揃えて、皆さまのお越しをお待ちしております。



勤行本やお念珠、お菓子類など、
記念品やお土産をご用意しています。



※「東本願寺お買い物広場」は、大谷派保信会加盟業者有志で構成される「株式会社 願生舎」が主体となって販売を行っています。

好評発売中

はじめてふれる
『坂東本・教行信証』



B5判・80頁
三木 彰円(著)
定価:1,650円(税込)
お求めは東本願寺お買い物広場にて

報恩講の「お齋」は、報恩講が始まった当初から、全国各地の「講」や御同行によって持ち寄られた、蓮根・椎茸・大根・ごぼうなどの食材で食事を作り、宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲びながらいたいたことに由来しています。現在もその伝統を受け継ぎ、各地の講から持ち寄られた食材によって調理されています。ぜひご賞味ください。



2023年の様子。椅子席を用意しています。

「お齋」の献立は一汁三菜が基本となっており、汁はけんちん汁、三菜は焚物、合物、風呂吹き大根で、ご飯と香物がつきます。また、かつて「お齋」は、全国から参拝されたご門徒の方々が各地へ持ち帰り、上山できなかったご門徒と報恩講に出遇えた喜びを分かち合い、食したと伝えられています。現在はその名残として、饅頭・お酒(五環正宗)・みかんをお持ち帰りいただいています。

【お齋に関するお問い合わせ】本願部(参拝接待所) TEL:075-371-9210
※予約の前日以降のキャンセル・人数変更ができませんのでご了承ください。

日時 11月22日(金)～28日(木)
1回目(120席)11時40分～
2回目(120席)12時40分～
※25・28日は2回目(120席)のみ
25日は12時10分、28日は12時40分～
場所 大寝殿または表小書院
冥加金 お一人4,500円

※空席がある場合に限り当日券を販売しますので、
境内白洲の受付テントにお問い合わせください。

能登半島地震
復興支援
能登野菜を使った
献立をご用意しています。



子ども参拝案内所

11月23日(土・祝)・24日(日)・28日(木)

場所 境内白洲テント

時間 9時～16時(28日は12時まで)

子どもたちに向けた両堂の参拝案内や参拝記念品の配布、工作や缶バッジづくり、紙芝居の上演、絵本の読み聞かせ等を行います!



おてらおやつクラブin東本願寺

お寺にお供えされるさまざまな「おそなえ」を、子ども参拝案内所へお持ちください。お預かりした「おそなえ」は、認定NPO法人おてらおやつクラブ事務局を通して、子どもやひとり親家庭などを支援する各地域の団体等にお送りします。



受付場所: 子ども参拝案内所
受付しているもの:
賞味期限が2025年1月17日以降のお菓子・食品もしくは日用品など

スタンプラリー

東本願寺・別院報恩講スタンプラリー

東本願寺と別院の報恩講にご参拝いただきたく「東本願寺・別院報恩講スタンプラリー」を開催いたします。東本願寺では、報恩講期間中、境内白洲総合受付にスタンプを設置し、台紙を配布します。
全国各地の別院では、それぞれの日程で報恩講が勤まります。ぜひ、それぞれの記念スタンプを集めてください。



「全国の別院に参拝しよう!」



スタンプラリー

真宗教団連合主催 真宗10派本山報恩講法要巡り

真宗教団連合主催で、宗派を超えた「真宗10派本山報恩講法要巡り(スタンプラリー)」を開催しています。東本願寺(真宗大谷派)では、11月21日～28日の報恩講期間中、境内白洲総合案内テントにスタンプを設置し、台紙を配布しています。

※法要巡りの詳細、各派の報恩講法要日程は「真宗教団連合ホームページ」をご覧ください。

10派全本山参拝の方には記念品を贈呈。ぜひご参加ください。



真宗大谷派教誨師・篤志面接委員会 企画

教誨師や篤志面接委員は全国の刑務所や少年院などの施設に収容された人たちと対話し、更生の道を共に歩いていく活動を行っています。
現在、真宗大谷派所属の教誨師、篤志面接委員等は真宗の教えに基づく教誨の充実と矯正事業への協力を目的に活動しており、その活動の一環として以下の企画を開催します。

◆ 刑務所作業製品展示即売会・パネル展

刑務所作業製品の展示・即売会と真宗大谷派の教誨師や篤志面接委員の取り組みについて紹介するパネル展を行います。売上の一部は犯罪被害者支援団体の活動に助成します。

日時 11月21日(木)～28日(木) 9時～16時(28日は12時まで)

会場 境内白洲テント



報恩講人権パネル展
解放運動推進本部

11月21日(木)～28日(木)

場所 境内白洲テント

時間 9時～16時(28日は12時まで)

宗祖親鸞聖人が立たれた「われら」の地平を確かめることを願って、「是旃陀羅」問題のパネル展示を行います。併せて、解放運動推進本部と女性室の取り組みを紹介します。



報恩講園児絵画展

11月15日(金)～11月28日(木)

場所 ・しんらん交流館／御影堂北側高廊下
・京都駅前公益地下ストリートギャラリー

時間 各施設の開所時間に準ずる(28日は12時まで)

(公社)大谷保育協会加盟園と京都市内の各園から募集した園児の絵画約400点を展示します。



東本願寺キャラクター大型バルーン

場所 境内南側 11月23日(土・祝)・24日(日)

東本願寺キャラクター(鸞恩くん・あかほんくん・蓮ちゃん)をモチーフにした大型バルーンを設置します。



ライブ配信 閲覧方法

視聴されたい法要・講演会の時間になりましたら
「東本願寺公式YouTubeチャンネル」にアクセスしてください。
※配信状況・受信状況により、配信が途切れる場合があります。
その際はしばらく経った後に再度、読み込みを行ってください。

YouTube 真宗大谷派 公式 検索

https://www.youtube.com/channel/UCLPB2H1qV_1BjH1KAVizZfA/live



真宗大谷派(東本願寺)公式
HP・Xについてのご案内

東本願寺公式ホームページでは、宗派におけるさまざまな情報を発信しています。



主な公開内容

- ◆ 宗派からのさまざまなお知らせ
- ◆ 毎月の法要・行事のお知らせ
- ◆ 宗派からの募集
- ◆ 寺院の方へ便利な情報が集約。

真宗大谷派公式ホームページ
<http://www.higashihonganji.or.jp/>

真宗大谷派 検索



真宗大谷派公式 X https://twitter.com/OTANIHA_PR

真宗大谷派のXでは法要・行事のご案内など、
さまざまな情報を発信しています。お気軽に
フォローください。

真宗大谷派 X 検索



重要文化財「手水屋形」修理現場公開

見学日時 11月21日(木)～27日(水) 11時30分～13時／15時～16時30分

受付場所 手水屋形



本年7月から行われている手水屋形修理工事の現場を一般公開します。
修理工事用の素屋根に上って、現場の様子を間近で見ることができるといふ機会です。ぜひお越しください。
※日程の都合により時間の変更となる場合があります。
※素屋根は修理工事用の足場となりますので、動きやすい服装と歩きやすい靴でお越しください。



ご懇志のお願い

私どもの宗門は、全国のご寺院とそこに集うご門徒のお運びいただいたご懇念により、宗祖親鸞聖人が顕かにされた本願念仏の教えに生きる「人の誕生」とその教えを相續していく「場の創造」を期し、報恩講をはじめとするさまざまな法要や行事を執り行っております。

今後の宗門のさらなる興隆を念じ、お一人でも多くの方にご懇志をご進納いただきたく、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

報恩講期間中、御影堂前の総合受付テントにてご懇志を受付しております。

しんらん交流館で開催される行事

報恩講期間中、しんらん交流館では、講演会をはじめ、さまざまな行事を行っています。ぜひ、日程にあわせてお越しください。



開館時間 9時～17時(24日、26～28日は21時まで)

ギャラリー(1階)

報恩講期間中の行事

常設展

「東本願寺の今昔」展

<観覧無料>

11月15日(金)～11月28日(木) 報恩講園児絵画展 ※詳細は44頁をご覧ください

大谷ホール(2階)

11月24日(日) 真宗教学学会講演会 18時～20時20分(開場17時)
11月26日(火)～28日(木) 親鸞聖人讃仰講演会 各日17時～20時(開場16時)

しんらん交流館では、一年を通じて定例法話や日曜講演などの法座を開いています。
詳しくはしんらん交流館ホームページ等でご確認ください。



真宗本廟(東本願寺)の飛地境内地である渉成園は、江戸時代初期に造営された池泉回遊式の庭園で、かつては周囲に枳殻の木が植えてあったことから、枳殻邸の名でも親しまれています。江戸時代の文人・頼山陽が「渉成園十三景」として讃えた庭園の景観は、今も造営当初の趣を残し、1936(昭和11)年12月には、国の名勝に指定されています。

四季折々に美しさを見せる渉成園ですが、特に報恩講の季節には楓、銀杏などが色づき、より一層その趣を高めています。



紅葉の様子

かえで いちょう

開園時間

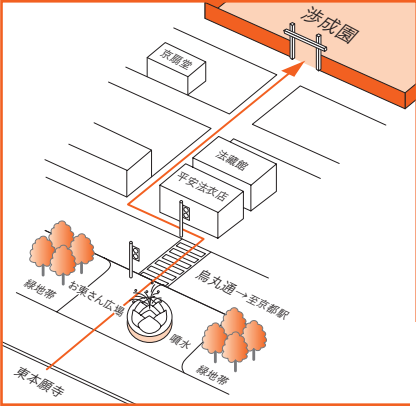
〈昼間〉9時～16時
(最終受付15時30分)

庭園維持寄付金

〈昼間〉700円以上
高校生・中学生:300円以上
小学生以下:無料

アクセス

京都駅より徒歩10分
市営地下鉄烏丸線・五条駅より7分



【お問い合わせ】本廟部・参拝接待所 TEL:075-371-9210

渉成園 夜間特別拝観「渉成園 秋灯り」
11月16日(土)～12月15日(日)

報恩講期間中、渉成園では、ライトアップを開催しています。さらに、ライトアップに合わせて、様々なイベントを開催。報恩講にお参りの際には、夜の渉成園もお楽しみください。

開園時間

〈夜間〉17時30分～21時30分
(最終受付21時)
※11月16日～12月15日のみ
※16時～17時までは一度閉門します。
(入れ替え制)

庭園維持寄付金

〈夜間〉1,000円以上
高校生・中学生:500円以上
小学生以下:無料



非公開建物「閨風亭」特別公開〈無料・申込不要〉

通常非公開の書院「閨風亭」に無料で入室いただけます。室内から見える「秋灯り」をお楽しみください。また、日により、飲食をお楽しみいただけるマルシェや東本願寺オリジナルグッズ(お土産)の販売もあります。

【公開日時】

ライトアップ期間中毎日〈17時30分～20時〉
※11/16・17、12/7・8を除く
○お土産出店日:11/18(月)～20(水)、
12/2(月)～6(金)、12/9(月)～15(日)
○マルシェ(ホテルカンラ京都):11/24(日)～12/1(日)



その他イベント

夜の舟旅〈有料・事前予約制〉

印月池を和舟にのって周遊します。ライトアップされた園内を、舟上よりお楽しみください。

【実施日】期間中の毎週木・金・土
〈11/16・21・22・23・28・29・30・
12/5・6・12・13・14〉

【時間】①18時～、②18時45分～、
③19時30分～、④20時15分～
※周遊時間約30分

【参加費】6,000円(庭園維持寄付金込)

【定員】各回5名



「東本願寺の「音景」」
柳沢英輔氏トークイベント
〈無料・申込不要〉

月刊誌『同朋』(東本願寺出版発行)で「東本願寺の「音景」」を連載中の柳沢英輔氏(音文化研究者、フィールド録音作家)が、ゲストと共に「音」の魅力を通して、渉成園や東本願寺境内の「風景」をあらたに見つめ、解説します。

【日時】11月23日(土)
17時30分～19時(予定)

【場所】閨風亭



このほか

- ▷《能登復興支援法座》
能登節の夕べ〈無料・申込不要〉
→52頁参照
- ▷書道体験ワークショップ
〈有料・事前申込制〉

「渉成園 秋灯り」の詳細・申込は →



真宗本廟奉仕

真宗本廟には、全国から集う皆さんが寝食を共にし、親鸞聖人の教えを聞き、真宗門徒の生活を習う聞法奉仕の施設があります。

「同朋会館」に宿泊し、聞法をとおして、かけがえない“私”をたずねてみませんか。どなたでも参加できます。

お申し込み

【団体】1 団体5名以上で受付します。
【個人】4名以下は個人枠で受付します
(最少実施人数5名)。
40日前までに、同朋会館研修部へお電話でお申し込みの上、申込書を提出ください。

冥加金

期間	大人 (15歳以上) ※学生以外	学生・高校生	小中学生	団体園児
2泊3日	18,000円	13,500円	9,000円	5,000円
1泊2日	13,000円	9,500円	6,500円	3,500円

※未就学児は無料です。上記の他に、2泊3日の場合は米2kg(又は米代金1,300円)、1泊2日の場合は、米1.2kg(又は米代金800円)が必要です。
※人数に応じて「団体補助」、距離に応じて「旅費補助」があります。
※「障害者手帳」及び「生活保護受給者証」をお持ちの方に対する冥加金の減額や身体的介助が必要な方の介助者冥加金免除がありますので、お問い合わせください。

お問い合わせ・お申し込み

研修部 TEL:075-371-9185
お気軽にお電話ください!

真宗本廟奉仕に関する情報を発信しています!

同朋会館
ホームページ

同朋会館
Facebook

東本願寺仏事サポートセンター(東京・福岡)のご案内

「東本願寺仏事サポートセンター」とは、東本願寺真宗会館(東京都練馬区)及び九州教務所 福岡教務支所(福岡県福岡市)に開設された仏事相談窓口の呼称です。
仏事相談や寺院紹介のほか、仏事代行制度の運用をとおして、両地域に転居されたご門徒と郷里のお寺とのご縁をつなぐ役割を担っています。

・東本願寺仏事サポートセンター東京(担当:首都圏教化推進本部)
専用ダイヤル(9:00~17:00) 03-6913-2273

・東本願寺仏事サポートセンター福岡(担当:福岡教務支所)
専用ダイヤル(7:00~21:00) 092-734-0208

〈日程例〉

	1日目	2日目	3日目
6:00		起床・洗面	館内清掃
7:00		晨朝参拝(帰敬式) 朝食	晨朝参拝 朝食
9:30	※11時までに和敬堂へお入りください。	(法名伝達式)	講義
10:30		お内仏のお給仕 ~御本尊を中心に~	座談(協議会)
11:00	入館	座談	解散式
11:20	結成式		
12:00		昼食	
13:00	日程打合せ 両堂参拝		
14:00	オリエンテーション	清掃奉仕 諸殿拝観	退館
15:30			※日程内容はご要望により、調整・変更できます。 ※1泊2日の日程もあります。
16:00	講義	講義	
17:00			
17:30	夕事動行 感話 夕食		
19:00		座談	
20:30			入浴 就寝
22:00			

おお たに そ びょう

大谷祖廟(東大谷)

大谷祖廟は宗祖親鸞聖人の御廟所(墓所)です。真宗本廟(東本願寺)の飛地境内地である大谷祖廟には、親鸞聖人をはじめ、本願寺の歴代やご門徒の方々のご遺骨が納められており、日々多くの参拝者が訪れます。真宗本廟と共に、親鸞聖人のみ教えを聞き、真宗門徒一人ひとりが自らをたずねていく聞法道場として開かれています。報恩講の折、親鸞聖人のお墓参りも兼ね、大谷祖廟へご参拝ください。

■開門 5時 ■閉門 17時
■納骨・永代経・読経受付時間
8時45分~11時30分
12時45分~15時30分
※11時30分~12時45分までは
受付を休止しています

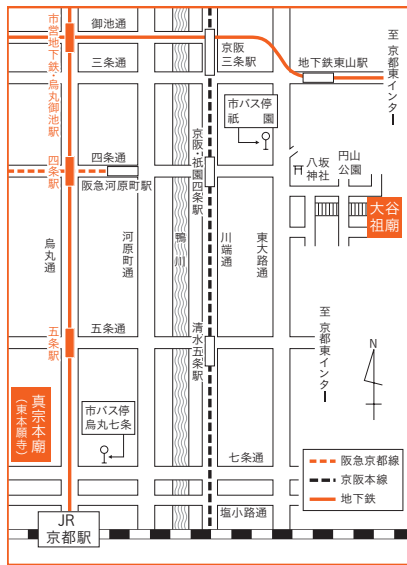


大谷祖廟「納骨・永代経」・「別座申経」の事前予約について

ご予約は宗派公式ホームページから承ります。

詳細、ご予約はこちらから 検索

※当日の申し込み・受付も行っております。



〈アクセス〉

<京都駅から>

▶市バス乗り場から206系統(約20分)→「祇園」下車 ※「祇園」バス停からは徒歩約10分です。

<地下鉄「四条」駅・阪急「烏丸」駅から>

▶市バス201・203・207系統(約15分)→「祇園」下車

<その他>

▶京阪「祇園四条」駅・阪急「河原町」駅→徒歩約20分
▶タクシー「円山公園南側の東大谷」とお伝えください。

※団体参拝バス(マイクロバス含む)でのご参拝は、大谷祖廟事務所にお問い合わせください。

●お問い合わせ

真宗大谷派(東本願寺) 大谷祖廟事務所
〒605-0071 京都市東山区円山町477
TEL:075-561-0777 FAX:075-533-0780



11月22日(金)～24日(日)

「東本願寺 能登半島地震復興応援ひろば」

能登の復興を応援する物産市を地元石川県の北國新聞社と協力して開催します。
能登の海産物や地酒、お菓子、伝統工芸品などのお店が東本願寺の門前に勢ぞろいします。

買って食べて飲んで、能登の復興をぜひ応援ください。

【共催】北國新聞社

【後援】京都府、京都市

【会場】お東さん広場

【時間】11時～17時(24日は16時まで)



北國新聞社 能登支援ロゴマーク

主な出店(予定)

- 能登牡蠣
- 力ニ汁
- 能登豚串カツカレー
- 能登力ニ弁当
- 洋菓子
- 能登地酒
- 和ろうそく
- 輪島塗
- 水産加工品
- お米
- お茶...など



写真はイメージです

11月25日(月)～28日(木)

御影堂門下にブースを設けて、引き続き**能登の物産品販売**を行います！

【時間】10時～16時(28日は14時まで)

※境内は飲食禁止です。飲食はお東さん広場をお願いします。

「令和 6 年能登半島地震」災害救援本部の動き

被災地の現状と宗派の支援活動を伝える写真パネルの展示を行います。

【期間】11月21日(木)～28日(木)

【時間】9時～16時(28日は13時まで)

【会場】境内白洲テント

真宗大谷派
災害情報X



11月21日(木)・22日(金)

「能登復興支援法座 能登節の夕べ」

ライトアップされた夜の^{しやうせいえん}渉成園を会場に、能登の現状報告とあわせて、能登節の伝承者・^{ひろ おか けんじゅん}廣陵兼純氏による^{ふし だん せつきやう}節談説教が行われます。ぜひこの機会に能登の真宗風土の一端を体験ください。

【会場】渉成園 閨風亭

※渉成園入園に際し、夜間特別維持寄付金(大人1,000円以上)をお納めください。

※渉成園ライトアップについては48頁をご覧ください。

【時間】両日とも19時～20時30分

(閨風亭へは18時30分よりお入りいただけます)

【講師】廣陵兼純 氏



《節談説教とは…》

高座の上で、まずお聖教の言葉が讃題として厳かにとなえられ、たとえ話を交えながら、話の重要な箇所ではことばに抑揚(節)がつき、語るがごとく、歌うがごとく仏法が語られます。それを受けて聴衆は手を合わせ「ナンマンダブツ(南無阿弥陀仏)」と念仏する…。まさに感動をもって教えが伝わる時と場です。

能登には、お御堂の床が抜けるほど多くの聴衆を集めたことから「御堂壊しの御坊さま」とも評された^{のり きよ ぶん ゆう}範浄文雄という昭和の名人がおられ、能登の方言で語られるその説教は「能登節」として伝わり、能登に培われた豊かな真宗文化の一翼を担ってきました。^{ひろ おか けんじゅん}廣陵兼純氏は、範浄文雄氏の流れを受け継ぐ「能登節」の貴重な伝承者です。

《真宗大谷派「令和 6 年能登半島地震」救援金口座》

皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

真宗本廟境内各所にも救援金箱を設置しています。

【救援金口座】郵便振替口座番号 00920-3-203053

【加入者名】真宗大谷派

※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。